

## 秋田ワールドゲームズ2001のライフセービング競技

稲垣裕美

## A report on Lifesaving Competitions in World Games 2001 AKITA

Yuumi Inagaki

## 1 ワールドゲームズとは

ワールドゲームズは、国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) が主催する国際総合スポーツ大会で、国際オリンピック委員会 (IOC) の後援を受け、4年に1度夏季オリンピックの翌年に開催されている。この大会には以下のような2つの大きな特徴がある。

- ① オリンピックのように国または地域を代表する選手によって競技が行われるのではなく、世界最高レベルという基準で各競技の国際連盟が選出した代表選手によって競われること。
  - ② 新たに大会用の施設や選手村はつくらず、必ず、既存の施設を使うこと。
- 今回の秋田ワールドゲームズは20年目、第6

回を数え、アジアで初の開催となった。なお、今までの開催地、実施競技数および参加者数は表1にまとめた。

## 2 秋田ワールドゲームズの概要

秋田ワールドゲームズは、2001年8月16日(木)～26日(日)の11日間、秋田県内8市町村(秋田市、雄和町、天王町、大瀧村、横手市、六郷町、本荘市、岩城町)の21会場で行われた。また大会では、オリンピックの競技種目以外のスポーツから選ばれた公式競技と公開競技が実施された。公式競技は26競技158種目、公開競技は5競技11種目であった。詳しい競技種目については、表2にまとめた。また、「日本の静と動 一字大書&剣道デモンストレーション」、「一輪車交流競技大会」、「ス

表1 大会開催地と実施競技数及び参加者数

	開催年	開催都市	開催国	実施競技数	参加者
第1回	1981	サンタクララ	アメリカ	18	約1,500人
第2回	1985	ロンドン	イギリス	23	約2,000人
第3回	1989	カールスルーエ	旧西ドイツ	45	約4,000人
第4回	1993	ハーグ	オランダ	30	約2,600人
第5回	1997	ラハティ	フィンランド	30	約2,500人
第6回	2001	秋田	日本	32	約3,200人
第7回	2005	デュイスブルグ	ドイツ		予定

表2 秋田ワールドゲームズにおける競技種目

公式競技 (26競技)				
ビリヤード	ボディービル	ブルスポーツ	ボウリング	キャストイング
ダンススポーツ	ファウストボール	フィールドアーチェリー	フィンスイミング	フライングディスク
新体操	スポーツアクロ体操	エアロビック	トランボリン	タンブリング
柔術	空手	コーフボール	ライフセービング	オリエンテーリング
パラシューティング	パワーリフティング	ローラースケート	7人制ラグビー	綱引き
水上スキー				
公開競技 (5競技)				
合気道	ビーチハンドボール	ゲートボール	相撲	女子綱引き

ポーツチャンバラ競技大会」のような各競技の普及や世界から訪れた選手、役員と地元の人々との交流を目的にした一般参加のプログラムなども合わせて行われた。秋田県ワールドゲームズ推進室の報告によると、秋田ワールドゲームズに77ヶ国10地域から2193人の選手が参加し、入場者は29万8680人であった。また、入場者が最も多かった競技はパラシューティング<sup>注1)</sup>(約2万8000人)、水上スキー<sup>注2)</sup>(約9000人)、7人制ラグビー<sup>注3)</sup>(約8600人)と続いた。ワールドゲームズは、国・地域の代表選手が競い合っているわけではないが、ロシア、アメリカ、フランスの選手がそれぞれの競技において活躍をみせていた。国別メダル獲得数は、表3にまとめた。我が国は、公式競技、公開競技合わせて、金メダル14個、銀メダル10個、銅メダル12個、計36個のメダ

ルを獲得した。

注1) パラシューティング：18世紀末にフランス人が気球から降下したのが最初とされる。着地位置の正確さを競うアキユラシーランディングと降下中に演技をするスカイダイビングに大別される。スカイダイビングには選手1人とカメラマンが組となって自由演技をするフリースタイルと、複数の選手とカメラマンの組み合わせで行うフォーメーションがあり、秋田大会では選手は4人とする。

注2) 水上スキー：現在のものに近い型は20世紀前半に始まったといわれている。水上用スキーを使うトーナメント、スキーを履かずに足裏で滑走するベアフ

表3 秋田ワールドゲームズにおける国別メダル獲得数

国名	公式競技				公開競技			
	金メダル	銀メダル	銅メダル	合計	金メダル	銀メダル	銅メダル	合計
ロシア連邦	24	15	5	44	2	-	3	5
アメリカ合衆国	15	8	8	31	-	-	1	1
フランス	12	5	6	23	-	-	-	-
ドイツ	10	10	15	35	2	4	1	7
オーストラリア	10	10	3	23	-	-	-	-
イタリア	9	11	8	28	-	-	-	-
日本	9	6	10	25	5	4	2	11
スペイン	5	4	1	10	1	1	-	2

(単位：個数)

ット、スノーボードの水上版であるウエークボードがある。トーナメントとペアフットは、パイで決められたコースをクリアするスラローム、ジャンプ台を使って飛距離を競うジャンプ、ボートに引かれながら演技をするトリックで争われる。

注3) 7人制ラグビー：フォワード3人、バックス4人の計7人で行われるラグビーである。スクラムは3人（プロップ2人とフッカー）で組む。後方にはスクラムハーフ、スタンドオフ、センター、ウイングが各1人控える。15人制ラグビーと同じ広さのグラウンドを7人でカバーするため、選手にはより走力とスタミナが求められる。フィジー、ニュージーランド、オーストラリアなど南半球で盛んに行われている。

### 3 ライフセービング競技

#### 3-1 概 要

秋田ワールドゲームズの公式競技の1つとして、ライフセービング競技が実施された。ライフセービングにおける競技は、海岸やプールなどの水辺で水難救助にあたるライフセーバーの救助能力向上を目的としている。過去5回の大会において、ライフセービング競技は実施されてきたが、その種目はプールで行われるもののみであった。今回の大会では、今までのプール種目に加え、ビーチやオーシャン種目が新たに実施された。日程は表4の通りで、24日と25日は秋田県立室内プール(写真1)で、7つのプール種目が実施され、フィンスイミングと共同開催であった。そのため、プログラムが通常の大会と比べて変則的であった。26日は岩城町島式漁港公園ビーチ(写真2)で、5つのビーチ・オーシャン種目が実施された。ライフセービング競技の参加チームは、2001年の世界大会で上位成績を

収めた8ヶ国（オーストラリア、ドイツ、イタリア、スペイン、南アフリカ、ベルギー、オランダ、イギリス）そして開催国日本の合計9ヶ国で、各チームともに男女5名ずつの10名で構成されていた。

#### 3-2 日本チーム

日本チームは、監督1名、コーチ1名、通訳1名、男子選手5名（男子キャプテン1名を含む）、女子選手5名（女子キャプテン1名を含む）計13名から構成されていた。筆者も日本代表選手として日本チームに加わった。21日は時差調整日、22日はプール公式練習日、23日はサーフ公式練習日と義務付けられているため、大会の3日前までに全チームが秋田入りをしなくてはならなかった。ベルギーや南アフリカのチームは約10日間前から秋田で調整を行っていた。最も遅く現地入りしたチームは日本とオーストラリアで、3日前であった。詳しい日本チームのスケジュールは表5に示した。また、大会期間中、選手や関係には顔写真入りのIDカード(写真2)が配られ、このカードを所持していることで、競技会場への入場、シャトルバスの利用が許可され、食事や宿泊も提供された。移動のシャトルバスは非常に便利であった。すべての出場チームが同じホテルに宿泊し、同じバスに乗って会場にも移動したので、諸外国のチームと交流の機会が増え、よい刺激を得ることができた。ライフセービング競技における世界大会の場合、各国の選手団ごとに宿泊先、スケジュールなどが異なっているため、ウェルカムパーティを除いてあまり交流ができないのが現状であった。

#### 3-3 ライフセービング競技の種目

ライフセービング競技の種目については、以下の1)～12)にまとめた。1)～7)がプール種目で、フィンスイム、マネキンレスキュー(人の形をした60kgのマネキン人形を脇

表4 ライフセービング競技の日程

2001年8月24日(金) プール			
予定時間	種目		
9:30	オープニングセレモニー		
11:00	200m自由形障害物レース	女子	予選
11:15	200m自由形障害物レース	男子	予選
11:30	100mレスキューメドレー	女子	予選
11:45	100mレスキューメドレー	男子	予選
18:00	200m自由形障害物レース	女子	決勝
18:10	200m自由形障害物レース	男子	決勝
18:20	4×50m自由形障害物リレー	女子	決勝
18:30	4×50m自由形障害物リレー	男子	決勝
18:40	100mレスキューメドレー	女子	決勝
18:50	100mレスキューメドレー	男子	決勝

2001年8月25日(土) プール			
予定時間	種目		
11:00	100mマネキンレスキューレース	女子	予選
11:30	100mマネキンレスキューレース	男子	予選
11:30	50mマネキンレスキューレース	女子	予選
11:45	50mマネキンレスキューレース	男子	予選
18:00	100mマネキンレスキューレース	女子	決勝
18:10	100mマネキンレスキューレース	男子	決勝
18:20	4×25mマネキンリレー	女子	決勝
18:30	4×25mマネキンリレー	男子	決勝
18:40	50mマネキンレスキューレース	女子	決勝
18:50	50mマネキンレスキューレース	男子	決勝
19:00	4×50mレスキューチューブリレー	女子	決勝
19:10	4×50mレスキューチューブリレー	男子	決勝

2001年8月26日(日) ビーチ			
予定時間	種目		
10:00	レスキューボードレース	女子	予選
10:20	レスキューボードレース	男子	予選
10:40	ビーチフラッグス	女子	予選
11:20	ビーチフラッグス	男子	予選
13:15	オープニングパレード・セレモニー		
13:45	サーフレース	女子	決勝
13:55	サーフレース	男子	決勝
14:10	ビーチフラッグス	女子	準決勝
14:30	ビーチフラッグス	男子	準決勝
14:50	パドルボードレース	女子	予選
15:10	パドルボードレース	男子	予選
15:30	レスキューチューブレスキューレース	女子	決勝
15:50	レスキューチューブレスキューレース	男子	決勝
16:10	レスキューボードレスキューレース	女子	決勝
16:30	レスキューボードレスキューレース	男子	決勝

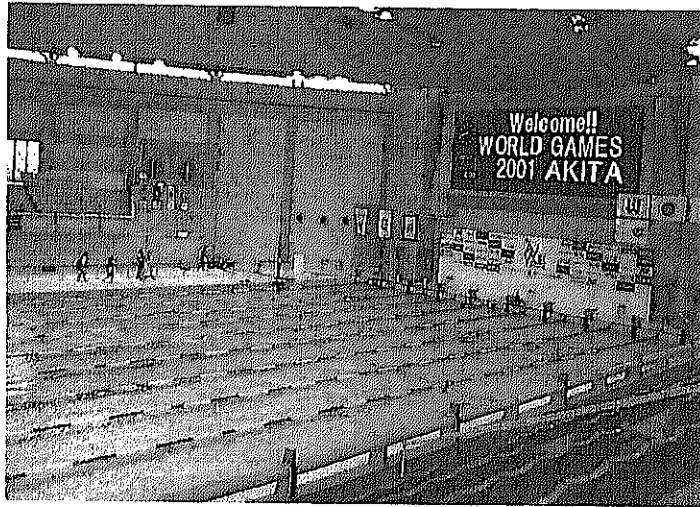


写真1 秋田県立室内プール

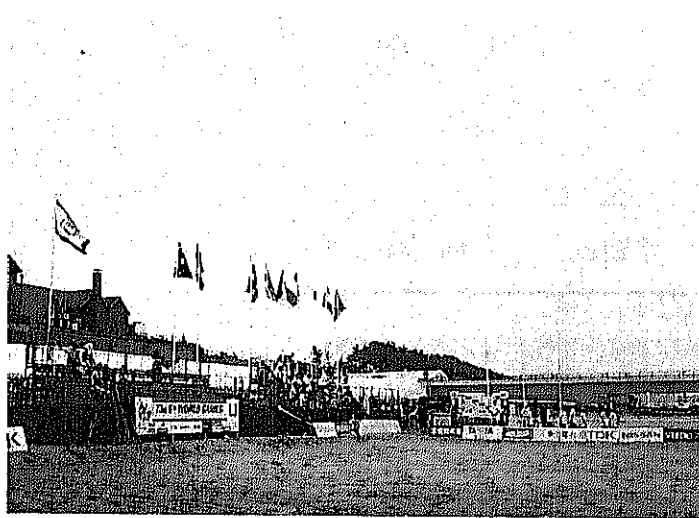


写真2 岩城町島式漁港公園ビーチ

に抱えながら泳ぐ), 潜行などのタイムを競い合い, 8) ~12) はビーチ・オーシャン種目で, タイムではなく着順によって競われる。

- 1) 200m 障害物レース：50m プールの両壁からそれぞれ12.5m 地点に設置された2ヶ所の障害ネットの下を潜り抜けながら, 200m 自由形で泳ぐ。
- 2) 100m マネキンレスキューレース：フィンをつけて50m 自由形で泳ぎ, 続けて水底に沈んでいるマネキンを引き上げ,

残り50m マネキンを抱えながら泳ぐ。

- 3) 100m レスキューメドレー：50m 自由形で泳ぎ, 続けて20m(女子15m)潜行し, 続けて水底に沈んでいるマネキンを引き上げ, 残り30m(女子35m) マネキンを抱えながら泳ぐ。
- 4) 50m マネキンレスキューレース：25m 自由形で泳ぎ, 続けて水底に沈んでいるマネキンを引き上げ, 残り25m マネキンを抱えながら泳ぐ。

表5 日本チームのスケジュール

日時		日程
8月21日	時差調整日	移動（東京発 秋田着）
8月22日	公式練習日	プール公式練習 ウエルカムパーティー
8月23日	公式練習日	ビーチ・オーシャン公式練習
8月24日	競技日	オープニングセレモニー プール種目（予選・決勝）
8月25日	競技日	プール種目（予選・決勝）
8月26日	競技日	岩城町オープニングセレモニー ビーチ種目（予選・決勝） オーシャン種目（予選・決勝） 岩城町クロージングセレモニー 秋田ワールドゲームズ閉会式 秋田ワールドゲームズクロージングパーティー
8月27日	移動日	移動（秋田発 東京着）

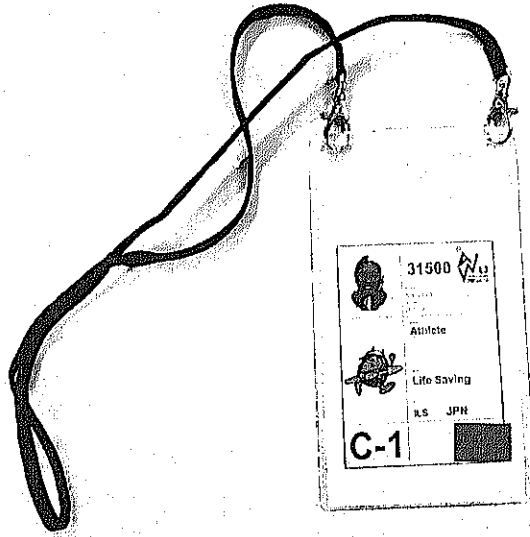


写真5 IDカード

- 5) 4×50m 障害物レース：1) を4人のリレーで行う。
- 6) 4×25m マネキンリレー：マネキンを抱えながら25m 泳ぎ、次の競技者にマネキンを受け渡す。25m づつ4人のリレーで行う。
- 7) 4×50m レスキューチューブリレー：第1競技者は50m 自由形で泳ぎ、第2競技者はフィンをつけて50m 自由形で泳ぐ。第3競技者はレスキューチューブを引っ張りながら50m 泳ぎ、そのチューブを第4競技者に渡す。第4競技者はフィンをつけ、第3競技者をレスキューチューブで引っ張りながら50m 泳ぐ。
- 8) サーフレース：スタートラインから海に向かって走り、沖合約120m のブイを泳いで回り、岸へ泳いで戻り、フィニッシュラインへゴールする。
- 9) パドルボードレース：スタートラインから海に向かって長さ約3.2m のボードを抱えて走り、沖合約150m のブイをパドルリングして回り、岸へパドルリングで戻り、フィニッシュラインへボードを持ってゴールする。
- 10) ビーチフラッグス：後ろ向きうつぶせになっている競技者が笛の合図で起き

あがって走り出し、競技者より少なく置かれたフラッグを奪い合う。

- 11) レスキューチューブレスキューリレー：各チーム4名で構成される。救助者役1名が約120m 沖にいる溺者役1名をレスキューチューブとフィンを使い一人で救助して岸まで戻る。岸には2名の救助者補助がいて、溺者をゴールラインまで運搬する。
- 12) レスキューボードレスキューレース：各チーム2名で、溺者役、救助者役に分かれる。まず、溺者役が約120m 沖にあるブイまで泳ぎ、その後、救助者役がレスキューボードで救助に向かい、岸には2乗りでパドルリングしながら戻り、フィニッシュラインにゴールする。

#### 3-4 競技結果

日本チームは7つのプール種目、5つのビーチ・オーシャン種目のすべてに出場した。プール種目は、ベルギー、オーストラリア、ドイツの選手が優れた泳力で様々な種目を独占したが、日本チームの力は及ばず、入賞を果たすことができなかった。しかし、ビーチ・オーシャン種目では健闘をみせた。特に、ビーチフラッグスでは、女子が優勝と3位、男子が3位と3名が入賞し、日本選手が活躍を



写真6 男子ビーチフラッグス

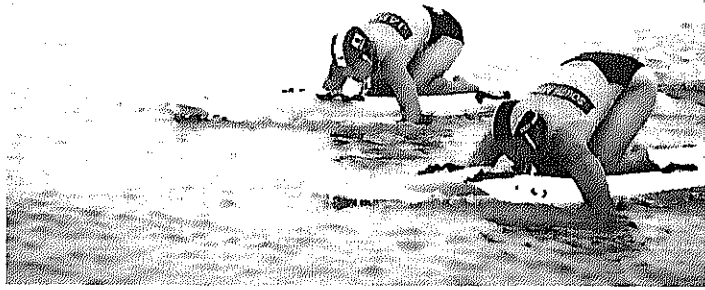


写真7 女子パドルボードレース

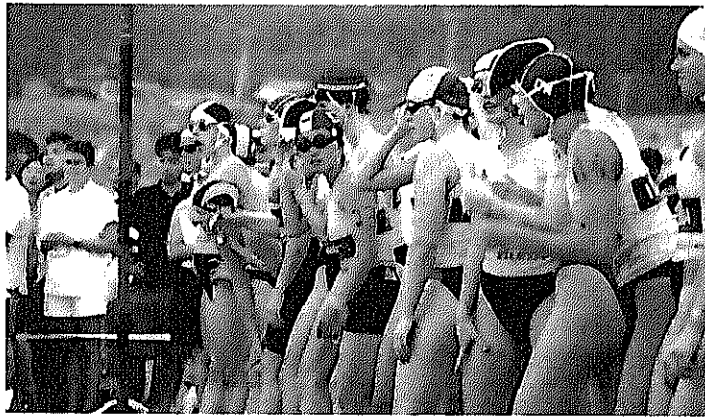


写真8 女子サーフレース (スタート)



写真9 女子サーフレース (入水)



表6 ライフセービング競技ポイント結果

男子			女子		
順位	チーム名	ポイント	順位	チーム名	ポイント
1	南アフリカ	72	1	オーストラリア	72
2	オーストラリア	72	2	南アフリカ	72
3	ドイツ	70	3	ドイツ	62
4	スペイン	66	4	ベルギー	54
5	イタリア	46	5	イタリア	52
6	ベルギー	42	6	オランダ	46
7	イギリス	34	7	スペイン	38
8	オランダ	30	8	イギリス	34
9	日本	26	9	日本	22

みせた。その他に、男子レスキューボードレスキューレースでは3位に入賞した。なお、海で行われた競技風景を写真6～9に示した。ライフセービング競技の総合ポイント結果は表6の通りで、南アフリカ、オーストラリア、ドイツが男女ともに入賞を独占した。

#### 4 おわりに

大会期間中、数多くのボランティアを目にした。大会会場どこにいてもボランティアがいた。スムーズな運営の裏にはボランティアの存在が必要不可欠なのであろう。一選手として感謝せずにはいられない。また、スペインチームのある女性選手は、過去20年間、5回も連続出場していたと、ウエルカムパーティーの席で国際ライフセービング連盟の会長ア

ラン氏から紹介された。20年間トップでいることができた彼女の強さと、スペインチームがライフセービング競技においてトップの地位を維持し続けていたことの両方がそろってこそ成し遂げられる偉業である。そのすばらしさに感動した。今回、日本代表選手として貴重な経験をさせていただいたことに感謝しつつ報告とする。

最後に、今回のワールドゲームズに参加できたことは、萩原武久体育センター長をはじめ、準研究員、事務官のご協力があったからである。また、資料集めに際し宇田川元春氏（秋田ワールドゲーム2001ライフセービング担当）には多大なるご尽力を頂いた。心から感謝の意を表したい。